

研修機関	のとじま臨海公園水族館
研修期間	平成19年11月5日～12月4日
所属・氏名	中能登町立御祖小学校 中谷 則子

## I 研修目的

- ・学校現場と異なる職業を経験することで、社会的視野を広げるとともに、自分自身を見つめ直し、自身の資質向上を目指す。
- ・お客様のニーズに答え、いろいろなサービスを提供しようとする姿勢や精神を学ぶと共に、研修先企業のさまざまな業務で経験したことを、今後の教育現場での教育活動や指導に生かす。

## II 研修内容

### 1 オリエンテーション

水族館内挨拶 館内施設・飼育システム見学 館内催し見学

### 2 飼育業務

#### ① 気象観測

#### ② 水温・水質検査

#### ③ 魚類箱詰め・搬出作業

#### ④ 水槽洗い・砂洗い・水槽移動作業

#### ⑤ クラゲの飼育

エサ作り 給餌見学・体験 クラゲの観察 クラゲ収集

#### ⑥ カメの飼育

エサ取り 給餌

#### ⑦ ラッコの飼育

エサ作り 給餌見学 ラッコの観察

#### ⑧ イルカの飼育

体温測定見学・補助 トレーニング見学 エサの準備・給餌見学  
イルカショーの準備・見学・後かたづけ ふれあいプールの準備・補助

#### ⑨ ペンギンの飼育

エサ作り 給餌見学 巣のそうじ ペンギンの散歩補助

#### ⑩ マンスリー水槽準備

魚類の選別 飾り作り

### 3 券売業務

#### ① 入館準備

#### ② 入場券の種類・割引の方法についての説明

#### ③ 券売の様子見学・実習

#### ④ もぎり実習

### 4 売店業務

#### ① 開店準備

館外清掃 イルカショー観客席清掃 商品陳列

#### ② 接客販売

レジ 袋詰め

## 5 イベント業務

### ① うんちく講座

金沢市立朝日小学校うんちく講座準備・見学

### ② 移動水族館（金沢での「元気です能登島観光物産展」にペンギンをつれて参加）

会場準備・後かたづけ ペンギンの移動・会場での展示補助

パンフレット配布

### ③ 裏側探検見学・補助

## III 研修成果

### 1 変化していく水族館

数年ぶりに来た水族館は、ドルフィン水槽や「イルカたちの楽園」と名付けられたトンネル水槽などの施設が増えていた。また、「ケルプ水槽」や月ごとにテーマを決めて展示する「マンスリー水槽」など、展示物にもいろいろな工夫がなされているだけでなく、「宿泊体験」や「イルカとふれあう ふれあいビーチ」などの様々なイベントが執り行われていた。

私がよく水族館を利用していたころは、「見て楽しむ」ものだったが、最近の水族館の傾向はその他に「ふれあい体験参加型」が望まれているようだ。

現状に満足することなく、職員の皆さんがどうしたらたくさんの人に水族館に来てもらえるか、どうしたら楽しんでもらえるかを考え、いろいろなアイデア・工夫をされている様子が伺えた。

学校現場でも、現状に満足するのではなく、今求められていることは何か、児童に必要なことは何かを考え、いろいろなアイデアを出し合い、よりよい教育現場になるように変化していかなくてはと感じた。

### 2 飼育業務を通して

飼育業務として、水族館では、水槽ごと、生物ごとに、水温測定・エサ作り・エサやり・観察・記録といった作業を行っている。毎日の業務の半分以上がこの作業に当てられているといってもいいだろう。一日の中にたくさんのいろいろな作業があるのだが、職員の皆さんは、効率よくてきぱきとこなしていた。職員の方によると、「同じことの繰り返しと思われがちな作業もあるが、毎日の作業や観察を通して、ちょっとした変化にも早く気づいて対応することができ、大きな事態も未然に防ぐことが出来る」ということである。生き物は、人と違い言葉が通じない。イルカやアザラシなどは、敵に弱みを見せないようにしているため、少し具合が悪くなってもそうだと気づかせない。だから、ちょっとした変化を見逃すと手遅れになる場合もあるようだ。そこで重要なのが観察と記録である。与えたエサの種類・エサの量・水換えの日や気づいたことなどが毎日事細かに記録されており、日々の観察と記録の大切さを実感した。これは、私たちが児童一人ひとりを知る上でも必要なことだと感じた。

また、イルカの飼育業務では、学校教育との多くの共通点を感じた。「人間と同じようにイルカたちにもそれぞれ性格が違い、トレーナーはそれをしっかりと見極めて対応してやらなければならない」こと、「トレーニング中でも、ショーの途中でも本当にこれでいいのかと悩みながら行っている」こと、「イルカたちもトレーナーを見て行動している」こと、「個体によって得意・不得意なものが違う」ことなどである。実際にショーを1日5回やってもすべて成功するとは限らなかったし、体温測定でもすんなりできないときもあり、その度にトレーナーの人たちはどこが悪かったのかどうしたらいいかを考えていた。私たち教師も、児童一人ひとりの性格を見極めて対応していかなければならないし、児童が理解できなかった場合はどこが悪かったのかと考えたり、わかりやすくするために授業を工夫したりしていかなくてはいけない。また、そうした私たちの様子を、児童はしっかりと見ていることをもっと自覚して教育をおこなっていかなくてはならないと感じた。

### 3 券売業務を通じて

券売業務では、実際に入場券を売る体験をさせていただいた。お金を扱うところということで、飼育業務とは違った緊張感があった。

券売係は「笑顔・話術・お金計算・道路案内・能登の観光施設の知識・機敏さ」が必要であり、このどれかが欠けただけでも、お客様にとって水族館全体が満足のない施設となってしまうことがある、とても重要な係であると言われた。どんなに水族館の内容が良くても、触れ合った職員の態度・言動によって台無しにすることがあるそうだ。券売所は、水族館にいらっしゃったお客様に初めて接するところである。ここでの対応がとても重要だと感じた。

また、もぎりをしている時に、「私たちにとって毎日同じことでも、いらっしゃるお客様にとってのとじま水族館は1回きり」という話から、「お客様がたくさんになるとなかなかできないときもあるが、来ていただいたお客様全員に笑顔で接し、楽しんでもらいたい」という思いを聞いた。私ももぎりをしながら、お客様に接する時には「笑顔」で「あいさつ」を心掛けた。「笑顔」は人の心をやさしくさせてくれるものである。人とコミュニケーションをとる時にまず大事なものは「笑顔」であることを、改めて実感することができた。

これは、教育現場でも同じであろう。多忙化で「笑顔」が少なくなり「言動」もきつくなりがちなのもあるが、児童とコミュニケーションを取るときには「笑顔」を心掛けていきたいと思った。

### 4 お客様から

いろいろな場での研修のため、いろいろな角度からお客様と接する機会があった。イルカやラッコの飼育業務では、飼育員としてお客様から質問を受けることがあったりしたので、職員の方のお話をメモして覚えたり職員の方に質問したりして、何か聞かれたときに少しでも答えられるように心掛けた。そうしたお客様から学んだことは、「ありがとう」という言葉のすばらしさである。毎日何気なく使っている言葉であるが、仕事をしている上で、お客様から言われる「ありがとう」という言葉は本当に心を温かくしてくれるものであった。

人から与えられる「言葉」一つで、良い感情も悪い感情も芽生えてくる。言葉の持つ力を改めて実感し、自分は児童にどのような言葉かけをしているか振り返る機会にもなった。

## IV 今後の課題

今回の研修では、自分からわからないことがあったら聞いて積極的に動いていこうと思っていたのだが、いざその時になるとなかなか聞くことができなかつたり、常に忙しい現場で次から次へといろいろな仕事をこなしていく皆さんを見て、自分がいることで仕事のじゃまになってはいないだろうかという気持ちから、なかなか積極的になれなかつたりした。そうした中、職員の皆様には仕事の手順を教えていただき、また水族館のことや生き物のことなどをいろいろ話していただき、本当に助かった。積極的に行動することの難しさを痛感すると共に、自分を見つめ直すいい機会となった。

また、小さな変化でも見逃さない観察力、毎日のきめ細やかな記録、これでいいのかと日々思考する姿勢、先の見通しを持って行動するという飼育員の姿勢に、改めて教職員としての姿勢を見ることができた。「慣れる」ことなく、「何気ない毎日の活動」の積み重ねを大切にしていきたいと思う。そして、この水族館で研修し経験し得たこと・感じたことを、児童との関わりや授業の持ち方などに生かしていきたい。

最後に、大変お忙しい中受け入れてくださった、のとじま臨海公園水族館の皆様、一ヶ月の研修中いろいろとご指導してくださった皆様に心から感謝申し上げます。また、このような貴重な機会を与えてくださった石川県教育委員会、中能登町教育委員会、そして御祖小学校の教職員の皆様に深く感謝いたします。